

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	ミャンマー国内の状況変化の影響で、事業地の妊産婦による母子保健サービスの利用が減少したが(2021年)、計画された地域に根差した活動を継続し、回復傾向に転じた(2022年)。詳細は「(3) 達成された成果」を参照。
	レウエイ郡保健局との信頼関係と協働体制を構築しながら、1年次に計画された活動を滞りなく実施することで、プロジェクト目標を3年間で達成するための土台作りを行う。
(2) 事業内容	本事業(第1年次)における中間報告以降の2021年10月31日から2023年4月30日までに実施した活動を、期待される成果毎に報告する。2021年2月1日以降の国内情勢の変化と新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大の中、ミャンマー事務所と東京本部及び東京本部内での連携を図ると共に、外務省民間援助連携室及び在ミャンマー日本大使館との連携を徹底した。現地スタッフ及び保健当局・医療従事者、地域住民の安全と健康を優先しながら、計画された活動の実施を進めた。 (1) 保健スポーツ省とネピドー公衆衛生局及び郡保健局との連携が促進されることで、他の郡への効果的な取り組みの波及が促進される 1-1 保健省との年次調整会議 2022年9月、保健省公衆衛生局長、公衆衛生局副局長(総務担当)、子どもの保健課長、母性保護課長、計画課長、計画課長補佐と会議を行い、事業の説明、進捗状況の報告、今後の活動計画の協議等を行った。 1-2 ネピドー公衆衛生局及びネピドー管轄郡との事業評価会議(活動2-5と統合して実施) ネピドー管轄郡の保健局の参加が認められなかったため、2022年2月、ネピドー公衆衛生局の事業関係者も参加して活動2-5の事業ワークショップを開催した((ウ)事業変更承認申請)。 1-3 ネピドー特別行政区の他の郡による活動現場の視察 今次事業での実施は見合わせた((エ)事業変更承認申請)。 (2) 郡保健局、医療従事者、コミュニティの連携が促進され、地域の保健システムが強化される 2-1 地域住民とのアドボカシー会議 当初の予定では事業対象地の村長をレウエイ郡中心街の会場に招いて実施する計画だったが、5人以上の集会禁止、感染症の流行、参加者の移動中の安全等を考慮し、対象地の村で実施することとした((ウ)事業変更承認申請)。郡内農村部178村の内、141村で実施し、事業内容を説明して、活動への理解と協力が得られた(治安上アクセスが制限されている30村、軍関係施設の3村、道路状況でアクセスが困難な4村では実施できず)。 2-2 助産師及び伝統的産婆による定期会合 今次事業での実施は見合わせた((エ)事業変更承認申請)。 2-3 地域医療関係者定期会議 郡内農村部の保健施設45ヶ所の内、40ヶ所で実施した(治安上アクセスが制限されている5ヶ所で実施できず)。各保健施設にて、地域の母子保健を担う助産師、補助助産師、そして、新しく育成した母子保

	健推進員、また、公衆衛生スーパーバイザーII、ヘルス・アシスタント、村の代表者が参加して、地域の保健課題を共有し、本事業の活動について理解を深めた。今後、定期的に開催し、医療関係者間の連携を強化する。 様々な理由により医療従事者が職場から離れており、妊婦健診や医療従事者による分娩介助、保健施設での出産等、保健サービスへのアクセスが困難な状況である。このような状況下、自宅にて補助助産師や伝統的産婆の介助によって出産することを選択する妊婦がおり、必ずしも安全で清潔な環境での出産が行われているとは限らず、リスクを負った出産となっている。このような状況を鑑み、助産師と補助助産師の連携を強化しながら、安全な出産ができる環境を整えるために「清潔なお産キット」の供与を行った。PHJ と連携が可能な補助助産師 43 人に分娩介助に使用する清潔なお産キット（計 964 個）及びガーゼ（2,892 枚）と使い捨て手袋（2,892 組）を供与し、5 月 31 日までに合計 886 回の分娩介助において活用された。供与を受けた補助助産師からは、供与された物資によって、自宅での出産でも出産する場所を清潔に保つことや、より衛生的に分娩介助の処置を行うことができると報告されている。 2-4 基礎保健スタッフによる活動計画策定支援 2022 年 10 月から 11 月にかけて、郡内農村部の保健施設 45 ヶ所の内、40 ヶ所において、2023 年の保健教育年間活動計画を策定した（治安上アクセスが制限されている 5 ヶ所で実施できず）。2023 年 1 月に助産師と公衆衛生スーパーバイザーII が中心となって、この活動計画に則って保健教育を開始し、4 月 30 日までに郡内農村部の村で合計 205 回（妊婦健診教育 145 回、産後検診教育 60 回）の保健教育を実施した。 2-5 レウエイ郡スタッフとの事業ワークショップの開催（活動 1-2 と統合して実施） 2022 年 2 月、レウエイ郡保健局スタッフ、ネピドー公衆衛生局スタッフ、レウエイ郡行政機関スタッフを参加者として、事業ワークショップを実施した。当初の計画では、レウエイ郡保健局スタッフと、現場で働く基礎保健スタッフが参加する計画だったが、COVID-19 の感染リスクを考慮して、基礎保健スタッフの参加は控えるとともに、事業評価会議と統合して実施することとした（（ウ）事業変更承認申請）。事業概要の説明、事業開始から現在までの活動状況の報告、そして、今後の活動計画が共有され、本事業の理解を深めるとともに、今後の連携を強める機会となった。 2-7 Continuous Medical Education（CME）会議支援 2021 年 2 月以降、レウエイ郡保健局での CME 会議が一時停止状態だったが、2022 年 6 月に再開された。月毎にトピックを選定して、基礎保健スタッフを対象として学習会を行った。主な学習トピックは、感染症（ Dengue 熱、急性呼吸器感染症、HIV、結核）、母子栄養、母乳育児、学校保健、HIV 母子感染予防、予防接種。 2-8 保健情報管理設備の整備 2022 年 7 月、レウエイ郡保健局や地域保健センターの保健情報管理システム（HMIS）のインフラ整備を目的として、パソコン 12 台、プリンター 12 台を調達した。第 2 年次事業で実施する計画だった HMIS 再研修（活動 2-9）を前倒して実施したうえで、機材を供与することとし
--	---

	た（（エ）事業変更承認申請）。他方、オーシッライン地域保健センターへの発電機の供与は中止した（（エ）事業変更承認申請）。 2-9 保健情報管理システム（HMIS）の再研修 2022 年 12 月、HMIS 再研修を実施し、計 26 人の基礎保健スタッフ及び郡病院スタッフが受講した（（エ）事業変更承認申請）。紙ベースの報告から電子データでの報告に移行するための最初の研修となり、HMIS の「Data Dictionary」の理解を深めると共に、データ処理の実習によって報告書の作成方法を再習得した。研修後、HMIS 用資機材（活動 2-8 コンピューターとプリンター、計 12 セット）をレウエイ郡保健局に供与した。 （３）妊産婦と新生児の保健サービスへのアクセスが向上する 3-1 地域住民との保健ネットワークの強化（活動 3-4 と統合して実施） 村の治安状況と感染症の流行状況、そして、村人の協力体制が確認された村において、2021 年 12 月から地域住民を対象としたマスマーケティング（活動 3-4）を実施し、このマーケティングにおいて各村の母子保健推進員の候補者の選定も行った（（ウ）事業変更承認申請）。2023 年 4 月までに、郡内農村部 178 村の内、141 村で実施し（治安上アクセスが制限されている 30 村、軍関係施設の 3 村、道路状況でアクセスが困難な 4 村では実施できず）、合計 607 人の母子保健推進員の候補者が選定された。 3-2 妊産婦の母子保健推進員による家庭訪問 2022 年 3 月から 2023 年 4 月にかけて、選定された母子保健推進員の候補者 607 人の内、182 人が母子保健推進員研修を受講した。助産師と補助助産師との連携が整った村から順次活動を開始した。村内の妊産婦と 5 歳未満の子どもの情報を集め、助産師に報告するとともに、妊婦と産後の女性の家庭訪問を行っている。加えて、助産師による保健教育や予防接種のサポートなどの活動を行っている。 3-3 母子保健推進員レポートの提出 活動を開始した母子保健推進員から、順次、助産師への報告を開始した。所定のフォームに、村内の妊産婦と 5 歳未満の子どもの情報や家庭訪問の実施状況など記入して、助産師へ提出する。 3-4 地域住民を対象としたマスマーケティングの実施（活動 3-1 と統合して実施） （（ウ）事業変更承認申請） 3-5 医療施設のプロモーション活動（経験共有） 今次事業での実施は見合わせた（（エ）事業変更承認申請）。 3-6 医療施設のプロモーション活動（施設訪問） 今次事業での実施は見合わせた（（エ）事業変更承認申請）。
--	--

(3) 達成された成果

本事業の活動から期待される成果は、(1)保健省とネピドー公衆衛生局及び郡保健局との連携が促進されることで、他の郡への効果的な取り組みの波及が促進される、(2)郡保健局、医療従事者、コミュニティの連携が促進され、地域の保健システムが強化される、(3)妊産婦と新生児の保健サービスへのアクセスが向上するであり、それぞれの成果を測る指標毎に現状を報告する。

期待される成果(1)を測る指標

(1)－1 ネピドー特別行政区の他の郡にて行動計画が策定される

◆他の郡での行動計画の策定支援は、第3年次に実施される計画。

期待される成果(2)を測る指標

(2)－1 全出産記録に占める妊婦健診・産後検診記録が欠如した出産記録の割合

開始前	第1年次	第1年次	第1年次	第2年次	第3年次
2018年	2021年	2022年	目標値	目標値	目標値
42.6%	集計不可	43.2%	42.6%	41.6%	40.6%

(2)－2 包括的な年間の保健計画が作成される

◆レウエイ郡の年間保健計画の策定支援は、第2年次と第3年次に実施される計画。

期待される成果(3)を測る指標

(3)－1 妊婦健診受診率(4回以上)

開始前	第1年次	第1年次	第1年次	第2年次	第3年次
2018年	2021年	2022年	目標値	目標値	目標値
73.4%	41.7%	45.0%	73.4%	74.5%	75.6%

(3)－2 産後検診受診率(4回以上)

開始前	第1年次	第1年次	第1年次	第2年次	第3年次
2018年	2021年	2022年	目標値	目標値	目標値
74.0%	34.4%	56.0%	74.0%	75.1%	76.3%

(3)－3 医療者による分娩介助率

開始前	第1年次	第1年次	第1年次	第2年次	第3年次
2018年	2021年	2022年	目標値	目標値	目標値
85.4%	74.1%	83.7%	85.4%	86.1%	86.8%

(3)－4 施設分娩率

開始前	第1年次	第1年次	第1年次	第2年次	第3年次
2018年	2021年	2022年	目標値	目標値	目標値
57.0%	50.7%	57.2%	57.0%	58.0%	59.0%

(4) 持続発展性	事業開始後、2021 年 2 月に宣言された緊急事態下における国内情勢の変化と COVID-19 の流行の影響を受け、基礎的な母子保健サービスの利用が、事業開始前（2018 年）と比較すると顕著に減少したことが確認された（「(3) 達成された成果」の「第 1 年次 2021 年」を参照）。複数の助産師が職場を離れたり、従来提供されていた巡回保健サービスが停止されたり、また一方で、村を離れる外出や感染への不安による保健施設離れなどにより、健診の受診を控えたり、自宅出産することを選択する妊婦が増えたことが推測された。 そのような中、住民に最も近い補助助産師と母子保健推進員という保健ボランティアの育成と強化に注力しながら、安心安全な妊娠・出産のための地域保健活動を継続した。その結果、2022 年には妊婦健診・産後検診の受診、保健施設や医療者介助による出産が回復傾向に向かった（「(3) 達成された成果」の「第 1 年次 2022 年」を参照）。地域の母子保健を担う助産師と、村の保健ボランティアである補助助産師や母子保健推進員との連携のもと、保健教育や家庭訪問を行いながら、保健サービスの利用が促されたことが伺える。 第 2 年次事業では、地域医療関係者会議を定期開催して地域の母子保健医療者間の連携と協力体制を強めると共に、減少してしまった助産師のサービスの質の向上を支援しながら、レウエイ郡の保健システムの強化に取り組む。 今次事業では、保健情報システムのインフラ整備を目的としたパソコンとプリンターを供与した。今次事業でこれらの資機材を供与し、第 2 年次事業で再研修を実施する計画だったが（(エ) 事業変更承認申請）、機材供与と研修を組み合わせることで、より効果的・効率的なインフラ整備と保健情報システム関係スタッフの能力強化が期待される。
-----------	--